



豊中市立第十五中学校
子ども支援 CO

ブルーズ
2021.5.26

本校でも学校に行きにくくなっている生徒がちらほら見られます。担任の先生を中心に学年でしっかりと話し合って解決や支援の方法を模索されていることと思います。登校しづらくなっている生徒をいち早くキャッチしてくださるのはいつも担任の先生です。「あの子、最近大丈夫かな？」という第 6 感のようなものは見過ごすことができません。これくらいで、、と遠慮せず、どんどん話題に出すことから始まるのだと思います。結果を急ぎすぎず、「待つこと」が一番たいせつです。

不登校のタイプ

- ・不安など情緒的混乱
- ・無気力
- ・いじめ起因
- ・学校生活に起因
- ・あそび 問題行動
- ・家庭環境（虐待 貧困 愛着障がいなど）
- ・意図的な拒否（自分の好きなことがしたい 学校に行く意義が認められない）
- ・健康
- ・自分の心体（LGBT など）
- ・発達障害

等があります。具体的に見立ててみてください。

不登校の段階的な対応について

気配りの必要な生徒

- ・不登校歴がある
- ・自尊感情がひくい
- ・自己表現が苦手
- ・発達に偏りがある
- ・家庭環境
- ・学力
- ・友達を作ることが苦手

不登校の始まりをキャッチする

- ・保護者と登校する日が続く
- ・保健室に行くことが多くなっている
- ・頭痛、腹痛、発熱などの原因のはっきりしない痛みや体調不良を訴える
- ・遅刻が多くなったり、欠席しがちになる
- ・給食や弁当を残すことが多くなる
- ・睡眠や食事がふだんのように取れなくなる
- ・外出が少なくなり、交友関係が減る

不登校かな？ 初期対応をたいせつに

- ①理由の分からない欠席→その日のうちに家庭訪問、などの素早い対応
- ②3日連続の欠席→家庭訪問、面談などを継続して行う
- ③本人の願い、困っていることを聴く
- ④発達障害についての知識を持ち、個人の背景を知る。→具体的な手立てを考える
- ⑤情報収集→発達段階における友達などの他者との関係の中で、
自分の事に気付いたときにしんどさが表れる。
→友達、先生、家族 の中でキーパーソンは？何が出来る？何が好き？
- ⑥学習 → スモールステップで
- ⑦クラスの集団作り→安心できる居場所づくり

※校内の支援チームの確立を！不登校委員会、学年、学校の体制の中で今あるものを充実させる工夫を必要とします。仕事を増やすことではありません。

※SSW や SC などの専門家の見立てをすることで先に進むことも多いです。

（学年や担任の先生は気軽に藤谷まで相談してください。）

→その後はスモールステップを共有して、チームで連携していきます。

子ども達や保護者への対応

保護者→生活の様子を聴く。つながるツールを探る
保護者のしんどさに共感する

本人→「学校において」という前に安心できる関係づくり
本人のしんどさに共感する。

例)「早く来てくれると嬉しい」ではなく、「一緒に進んでいこう」「なんでも言ってね」という姿勢で聴く。はじめに聞いてくれる担任の存在はとても大切です。焦らずゆっくり。担任の先生が悪いわけではないと頭ではわかっていてもつい「今すぐにでも教室に来てほしい！」と思ってしまうかもしれませんが、ここはぐっと我慢して「待つ」ことです。

登校時の配慮

- ・いつ、どのように、何をするかなど具体的に約束します
- ・子どもが具体的に計画を立てる手伝いを。
- ・子どもにとって“今、何が大切なのか？何が必要か？”根本を見つめる。
- ・目に見えない変化があることに気付くこと。待つこと。

